

2008年1月16日

総本山仁和寺「御室桜（おむろざくら）の第1回土壌調査」実施について

昨年4月に、「御室桜調査プロジェクト」を発足し、旧御室御所、真言宗御室派総本山仁和寺(住職：佐藤令宜 京都市右京区御室大内33)境内中門を越え左手に広がる“御室桜”(名勝)について、人の背丈にまでしか成長しない等、特異性の解明、その美しい景観を維持管理することを目的に、調査研究を行うこととなりましたが、前準備を整えこのたび、第1回目となる土壌調査を実施する運びとなりました。本調査については、京都府文化財保護課及び各行政機関と協議の上、藤井英二郎教授（千葉大学）のご指導の下、住友林業グループが調査研究を行います。

■ 調査概要

御室桜が人の背丈ほどしか成長しない謎の解明、そして衰えてきている樹勢を回復するためには、詳細な土壌調査と根の観察を行う必要があります。そのため、桜が冬眠し、その成長に影響が少ない今冬に調査を行うこととなりました。今回は第1回目の調査として、ボーリングによる調査を実施します。初めての地盤調査であり、地中内の状態が把握できていないため、まずはボーリングによる地質調査を行います。今後3～5年をかけて、土壌調査、成長調査、クローン増殖、DNA鑑定等様々な調査・研究を行っていく予定です。

今回のボーリング調査には、汚染土壌や宅地の土壌調査等に使用されている最新の機械を用いて行います。通常、ボーリングを行う際は、土壌との摩擦により発生する熱を抑えるため、水を加えながら掘削を行いますが、この機械は微振動による掘削方式であるため、無水で掘り進めることができ、土壌中の様子をありのままに観察できます。また、サンプリングした熱の発生が少ないこと、加水による土壌中の化学物質の流亡がほとんどないため、土壌の化学分析に与える影響も、通常のボーリングに比べ非常に少なく抑えることができます。

■ 調査詳細

土壌のサンプリングは、計6カ所で行います。御室桜が植えられている場所は、参道から見て左に向かって下がっているため、土壌中の水分状態や地層の連続性を解明するため、斜面最上部、上部、中部、下部、最下部の5カ所でボーリングを予定しています。さらに、近年、特に枝枯れが目立つ桜が集中している部分1カ所の計6箇所を選択しました。

ボーリングする深さは、硬い土の層にぶつかるまで、約4m程度を予定しておりますが、これは実際の調査状況により若干変わる可能性があります。

なお、調査及び化学分析は、住友林業(株)筑波研究所、住友林業緑化(株)（社長：井崎則洋 本社：東京都中野区本町 住友林業(株)100%出資）、スミリンベーステクノ(株)（社長：小島明夫 本社：東京都台東区上野 住友林業(株)100%出資）が担当し、観察による土壌解析は、千葉大学と住友林業が共同で行います。

■ 「御室桜調査プロジェクト」経緯と今後のスケジュール

2007年4月 「御室桜調査プロジェクト」発足。京都府文化財保護課及び、各行政機関と協議の上、千葉大学、住友林業グループ協力のもと調査研究を進める。

2008年1月 第1回土壌調査実施 ボーリング調査により6ヶ所にて土壌のサンプリング実施。

～ 今後の予定 ～

2008年4月 開花状況調査

2008年8月 成長量調査

2008年12月 第2回土壌調査

2009年1月 土壌改良試験開始



<当日の地盤調査の様子>

以上

<本件に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。>

住友林業株式会社

コーポレート・コミュニケーション室 佐野・佐藤

TEL：03-3214-2270

FAX：03-3214-2272